

保存用資料

認知症（痴呆）について その1

『広辞苑』で「認知」をひいてみると、「事像についてしること、ないし知識を持つこと」
眼から入る知覚情報、耳から入った言葉や音、手足からの感情情報などをふくめて総合的に
分析する大脳には、認知機能というものがあります。認知機能は日常生活で欠かせないもの
です。

認知症（痴呆）は、脳の老化が元で生じる脳の病気です。その中の大脳が壊れて認知障害
を生じ、社会的生活力・生活管理能力が失われた状態が認知症です。大脳は外側全体を厚さ
3mm程度の大脳皮質が覆い、その内部を大脳白質が占めています。大脳皮質が壊れるのが
アルツハイマー型認知症やレビー小体型認知症、大脳白質が壊れるのが脳血管性認知症です。

大脳皮質の病気であれ、大脳白質の病気であれ、分析・判断・実行・記憶などに関係する
神経ネットワークが壊れると、買い物や調理、仕事などの社会的活力が失われ、一人暮らし
が難しくなります。この状態が半年以上続くと認知症です。認知症の原因の5～6割程がア
ルツハイマー病で、1～2割位が脳血管性認知症・レビー小体型認知症です。

認知症になった方の割合（有病率）を年代別にみると、加齢に伴って75歳以降に急増し
始まり、年齢が5歳上がると、有病率は倍増しています。85歳以上の四人に一人が認知症
です。

アルツハイマー病：アルツハイマー病の最大の要因は老化です。老化にともなって不要なタン
パク（ごみタンパク）が脳に多量に蓄積します。不要なタンパクが溜まらないようにすれ
ば、アルツハイマー病を防ぐことができます。

脳血管性認知症：脳血管性認知症は、脳血管障害によって生じる認知症。主に、脳の白質と
いう線維連絡網（ネットワーク）があるところが、血流不足によってダメージをうけて生じ
ます。加齢による動脈硬化が、原因です。動脈硬化を防ぐことが、脳血管性認知症の予防に
なります。

脳の中では、たくさんの神経細胞がネットワークを作って情報のやり取りをしています。
しかし、いったん壊れてしまうと再生が難しいという一面も抱かえています。手足の動きを
コントロールする神経細胞が脳梗塞で壊れると、半身に運動麻痺が起こります。半身麻痺に
なっても、リハビリテーションを行うと徐々に麻痺の回復が見られます。このとき、障害さ
れた神経細胞が生き返るのではなく、障害を免れた別の部位で新たなネットワークが作られ
て、失われた機能が代償されます。脳は障害を受けやすい特徴とともに、障害をうけても良
くなる回復力を秘めています。

参考文献 認知症予防 山口晴保著 共同医書出版社

次号では認知症を防ぐ為の生活上の工夫についてです。

バックナンバーは、[Http://www.agora-gifu.com](http://www.agora-gifu.com)

編集
後記

6月に未来塾の発足会があり、岐阜市の細江市長からこれから岐阜市が取り組んでゆく計画につい
ての講演がありました。8月19日（水）に第一回会合が始まります。生活者の視点での少子・高齢
化に優しいまちづくりを進めたいと思います